

# 新中学校開校準備委員会だより No.20

令和6年12月

伊豆中学校開校準備委員会事務局（伊豆市教育部学校教育課内）

## 答申に向けた協議も大詰め～通学、学校の在り方について～

開校まで残り3か月となり、新校舎の工事  
も着々と完成に近づいています。

11月25日（月）に開催された第21回準備委員会では、前回に引き続き通学や学校の在り方について検討を行いました。開校に向け、答申案をまとめていく作業もいよいよ大詰めになってきました。

会議の中で提案された内容を紹介します。

### 学校の教育目標は 「共に高め 未来を創る」

修善寺、中伊豆、天城の3中学校と、土肥小中一貫校の校長先生方が中心となって作成した、令和7年度伊豆中学校の学校教育目標案が提案されました。

伊豆中学校では、すべての生徒や教職員が、全くの新しい学校に集うため、人間関係はとて大切なものになります。相互に関わり合う中で、個々の生徒が伸びていける学校をイメージしました。一人ひとりのよさを認め、多様な個性を包摂する中で、子供も先生も共に育ててほしいという願いが「共に高め」という言葉に込められています。特に「高め」には、集団として全体が伸びていく場合もありますが、基本的には個々の子供が伸びていくという意味で捉えています。

また、真の知識は実践によって裏付けられていなければならないという意味で、「知行合一」（ちこうごういつ）という言葉があります。「未来を創る」という言葉には、これからの社会の創り手として、行動できる子供に育ててほしいという思いが込められています。

### 通学については、アンケート結果も活用しながら検討

来春、伊豆中学校に通う子供の保護者を対象に、11月末に主な通学方法として考えているものを伺いました。

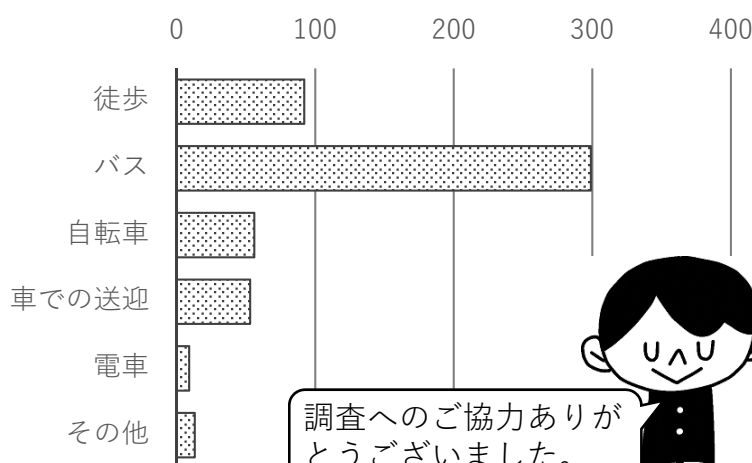
学区が広域化するため、バス通学が全体の4分の3を占めていますが、全体の4分の1は複数の通学手段を組み合わせると回答しています。通学に関する答申案は、こうした多様な通学方法に対応したものになるよう、調整を重ねています。



全体会（写真上）：大学教授のアドバイスを受け論点を明確にしました。

検討部会（写真下）：提案された学校教育目標を基に、目指す学校の姿を共有しました。

主な通学方法等として考えているもの（複数回答）



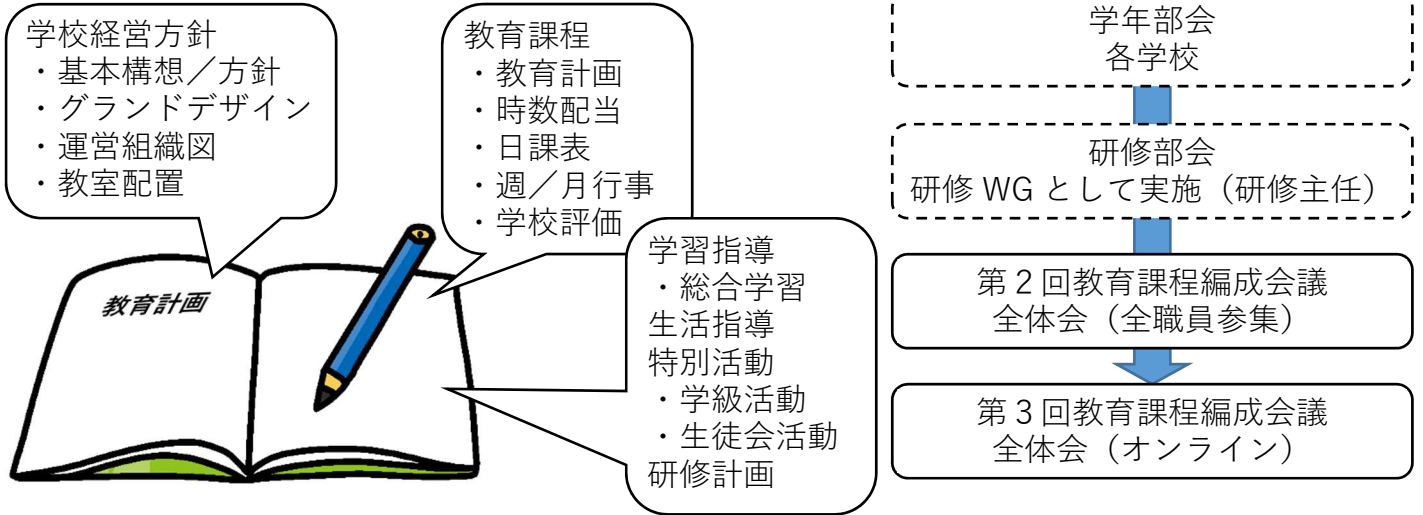
調査へのご協力ありがとうございました。



## 中学校では教育課程編成会議が始動

前号でもお知らせしましたが、中学校の現場では各ワーキンググループ（WG）が中心になって、伊豆中学校のソフト面（基本計画、制度設計等）の準備を進めてきました。

これから各担当が別々に準備してきたことを「令和7年度の教育計画」として一つにまとめていく作業に入ります。すべての先生方が協力し、教育計画づくりに参画します。



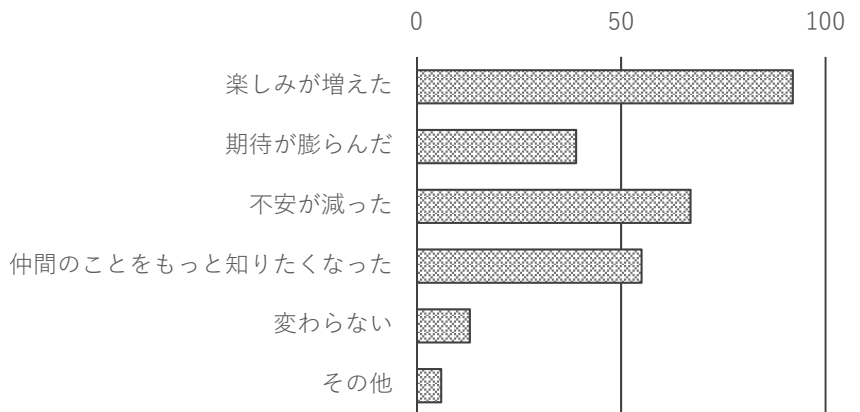
## 伊豆中学校の生活が楽しみ～児童・生徒交流事業から～

10月24日（木）には3中学校の生徒が修善寺中で、また、11月14日（木）には、市内の全6年生が狩野ドームで交流会を行いました。

伊豆中学校で共に過ごす仲間とユニークな自己紹介や仲間づくりゲームを通して交流しました。多くの子供たちが「伊豆中学校の生活が安心して始められる機会になった」と答えています。

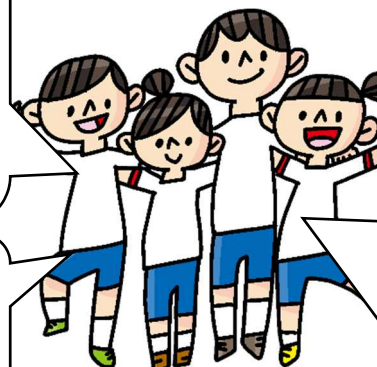
右のグラフは、土肥小中一貫校を除いた6小学校のアンケート結果です。

交流会前に比べ、伊豆中学校での生活に対する気持ちはどのように変わりましたか。



いろいろな学校の人と仲を深められたし、自分から積極的に声をかけられた。目玉焼きのゲームが楽しかった。誕生日のゲームで同じチームの友達の誕生日を知ることができた。早く中学生になりたいと思った。

初めは緊張したけど、どんどん打ち解けていってとても楽しい交流会になりました。友だちも増えて中学校生活が楽しみになりました。



最初から最後まで緊張が解けなかった。自分が積極的なタイプじゃなかったから、他校の人と話せなかった。他校の人にも個性があった。知っている人もいたけど、話せなかった。友達がいまあまりできなくて悲しかった。でも、中学校では少しでも友達をつくりたい。